



大切に引き継がれてきたたからもの

仲嶺 真弓

5月28日(土)無事にパパ懇談会&親子まつり行事を開催することができました。久しぶりの全体行事に職員は企画段階からドキドキワクワクしていました。久々の行事を楽しむことと、感染症対策の両端から考え、ちょうどいい具合を絞り出し、クラス単位で春の1日を楽しむことにしました。初のコラボ行事はどうだったでしょうか？

0・1歳児は中園庭での遊びを親子で楽しみ、のんびりほのぼのとした時が流れていました。2歳児は2号公園をスタート地点にし、近隣散歩へ。いつものお散歩コースを歩きました。3歳児はふれあいルームでお化け屋敷を楽しんだ後、ホールで綱引き大会。4歳児は保育室で椅子取りゲーム。5歳児は2号公園で、親子で二人三脚(三人四脚)やボール運びゲームなどを楽しみました。当日はいいお天気で気温も高く、2・5歳児クラスの園外散歩で、お母さんと共にでかけようとしていたベビーが数名いて、熱中症の危険を伴うと判断し、急ぎょベビー保育室を開設しました。ベビーは5人いたのですが、0歳児部屋で爽やかな初夏の風を感じながら母から離れてもご機嫌で過ごせました。

参加者は、73名(参加家庭は、75家庭中50家庭)。当日はどのクラスでも、子どもたちと一緒に日頃の遊びを楽しむ大人の笑顔が見られ、そんな大人の姿を見て笑う子どもたちの表情がとても印象的でした。他者と関わり合う中で、心を耕し育まれるものがある。そんな風景をこれからも大切にしていきたいです。

様子を写真で掲載しています。つばさっ子の18ページ、19ページをご覧ください。

【 大切なたからもの ~つばさ文庫~ 】



今まで、つばさ文庫や4・5歳児のお話しキャラバン(月1回、素話や絵本を読み聞かせてくれています。)で子どもたちの身近に絵本がある環境を作り続けてきてくれた森崎さんが、6月から熊本へ転居されることになりました。森崎さんは、今はあたりまえにある熊取町図書館の設立にも大きく関わってくださった方です。

思い起こせば、つばさ共同保育園の開園準備から力を貸していただきました。職員には、絵本が痛まないようにとブックコートの方方を伝授してくれました。子どもたちが自ら興味を示し手に取りやすい絵本の収納方法も教えていただきました。

2017年度のつばさ文庫立ち上げのきっかけも、森崎さんからの「つばさ共同保育園でも文庫をしませんか？」という声掛けでした。当時の私は、姉妹園のアトムが2014年度の園舎建て替えの後にアトム文庫も開設され、地域の方はもちろんのこと、アトム園児も文庫で絵本に触れるひと時を過ごせていることをとても羨ましく思っていたので、森崎さんからのこの依頼に心が弾み、「ぜひお願いします!!」と即答していました。つばさ文庫開設が決定し、2017年度の夏から森崎さんと地域ボランティアの持田さん、岩木さんが一緒に準備を進めてくださり今に至ります。図書館からは距離がある、つばさ地域の子どもの身近にも本がある環境を一緒に作っていただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも森崎さんをはじめたくさんの方で育まれたこのつばさ文庫は園の大切なたからものです。

つばさ文庫は、週1回木曜日の朝10時~12時まで、ふれあいルームでしています。地域のボランティアの方々、子どもたちが個々に自分の好きな絵本を手に取り、好きな姿勢で絵本を見ながら、傍らにいる大人に読み聞かせてもらうなど、自由に絵本と触れ合える時間を大切にしています。文庫ボランティアの方と職員とで、これからも子どもたちが絵本と出会いほっこりできる時間を過ごせる場所を大切にしていきたいです。

